

【令和5年度 公共事業評価監視委員会】

川副中央幹線道路整備事業 (再評価)

令和6年2月9日

建設部 道路整備課

川副中央幹線道路整備事業の概要

位置図

【起点】
新郷本町交差点

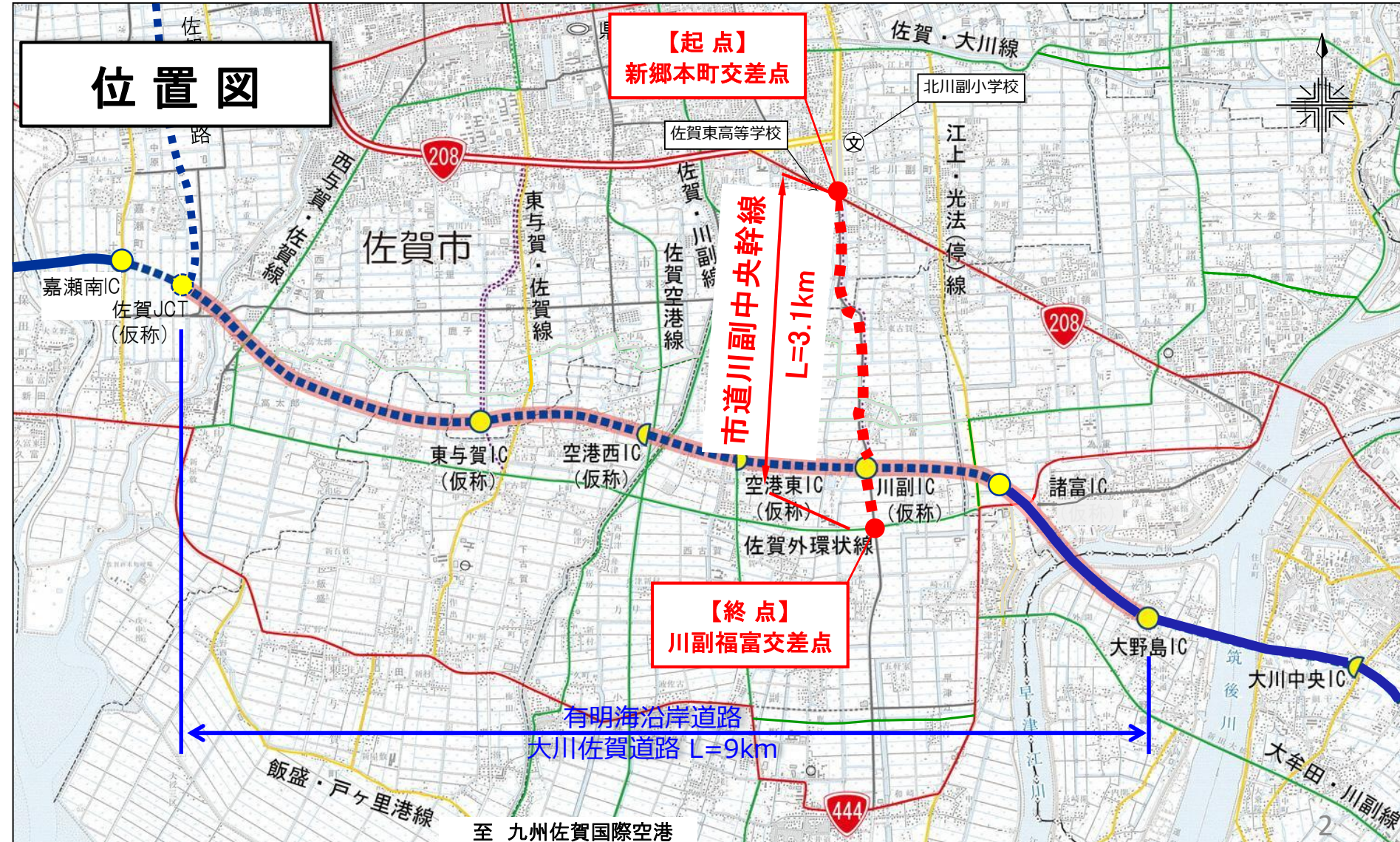
【終点】
川副福富交差点

市道川副中央幹線

L=3.1km

有明海沿岸道路
大川佐賀道路 L=9km

至 九州佐賀国際空港



川副中央幹線道路整備事業の概要

事業概要

- 路線名 : 市道川副中央幹線
- 起 点 : 佐賀市新郷本町
- 終 点 : 佐賀市川副町大字福富
- 延 長 : 3.1km
- 幅 員 : 12.25m (片歩道) ~ 18.0m(両歩道)
- 全体事業費 : 46.0億円
- 事業期間 : (当初)平成30年度 ~ 令和6年度
(変更)平成30年度 ~ 令和8年度
- 事業内容 : 改良工 L=3.1km , 函渠工 N=11基
用地買収 21,100m² , 物件補償 18件

川副中央幹線道路整備事業の事業進捗見込み

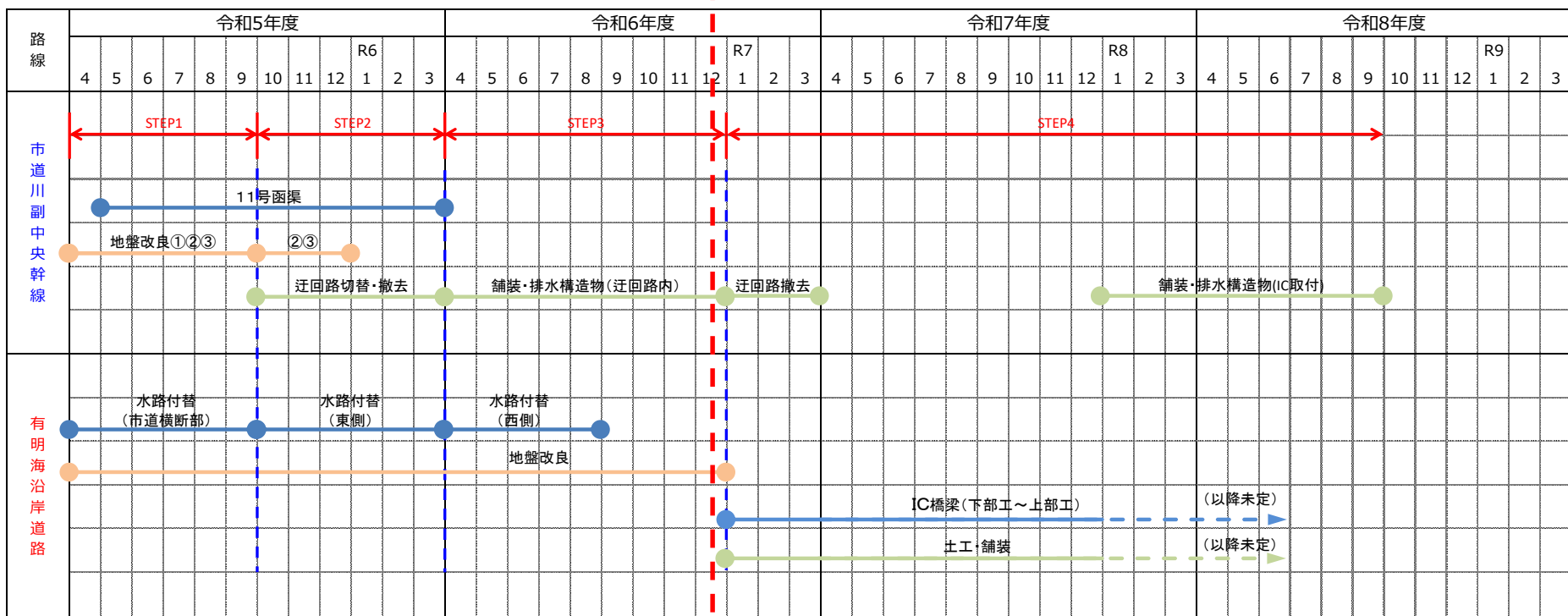
今後の見込み

○事業期間 当初：平成30年度～令和6年度

変更：平成30年度～令和8年度（+2年延長）

理由：有明海沿岸道路を整備する国土交通省との工程調整の結果

■事業工程表(川副IC)

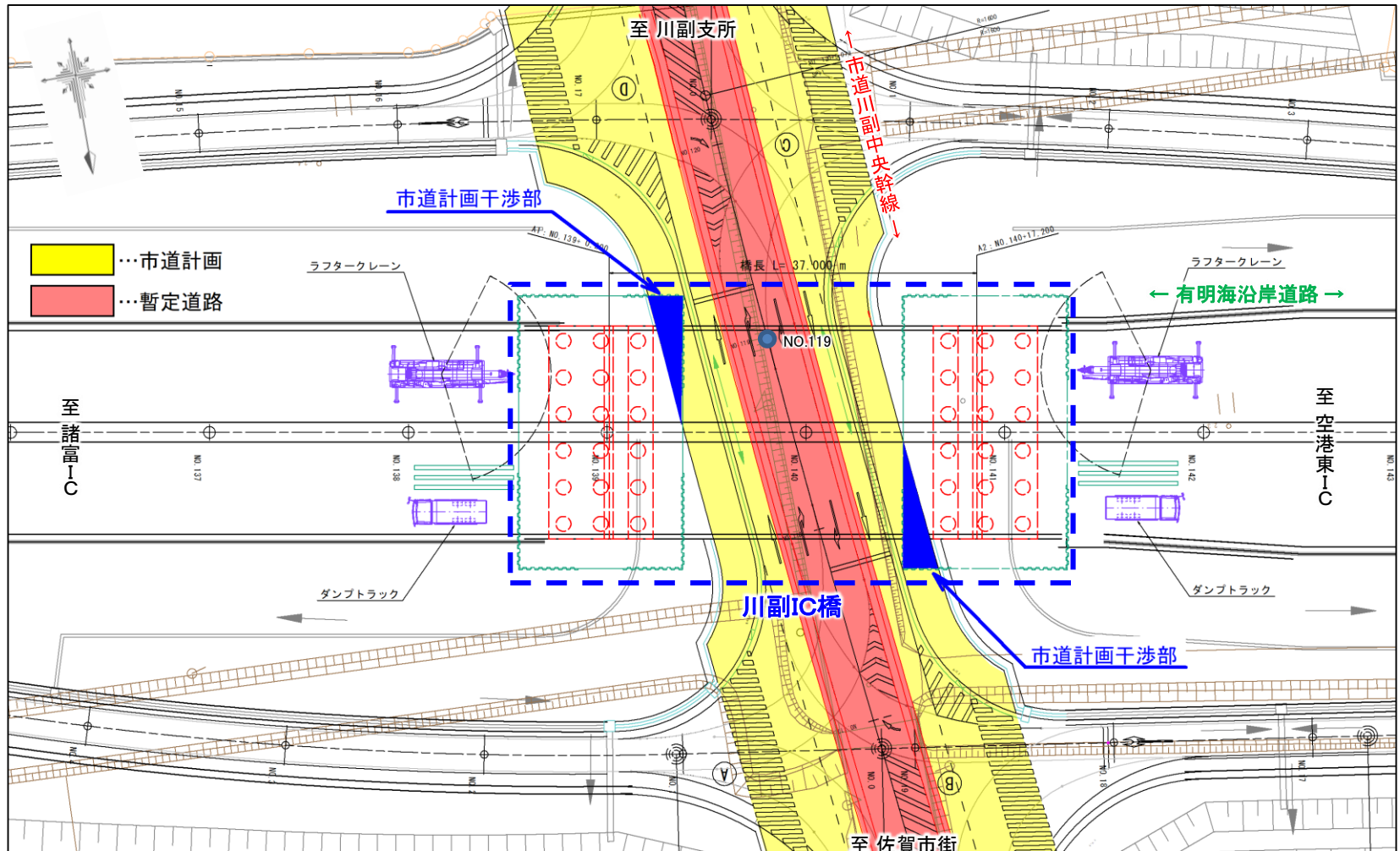


※川副IC橋の整備が令和7年～8年の予定

川副中央幹線道路整備事業の事業進捗見込み

■STEP4 IC橋梁部拡大平面図

令和7年から整備予定である川副IC橋の橋台施工時に矢板打設位置が市道計画部分に干渉しており、橋台施工時は暫定形で車両を通行させる。橋台完成後、IC取付部分を含めて市道整備を行う。(令和7~8年度)



川副中央幹線道路整備事業の必要性

当該道路の現状

- ①右折レーンが無い**ため、交差点で渋滞発生**
- ②学校近隣による**通学路としての利用に対して、歩道整備不十分**



①



②

川副中央幹線道路整備事業の必要性

(仮)川副IC開通：交通量増加

開通前：5,700台/日

開通後：8,500台/日 (新郷本町交差点付近)

問題点

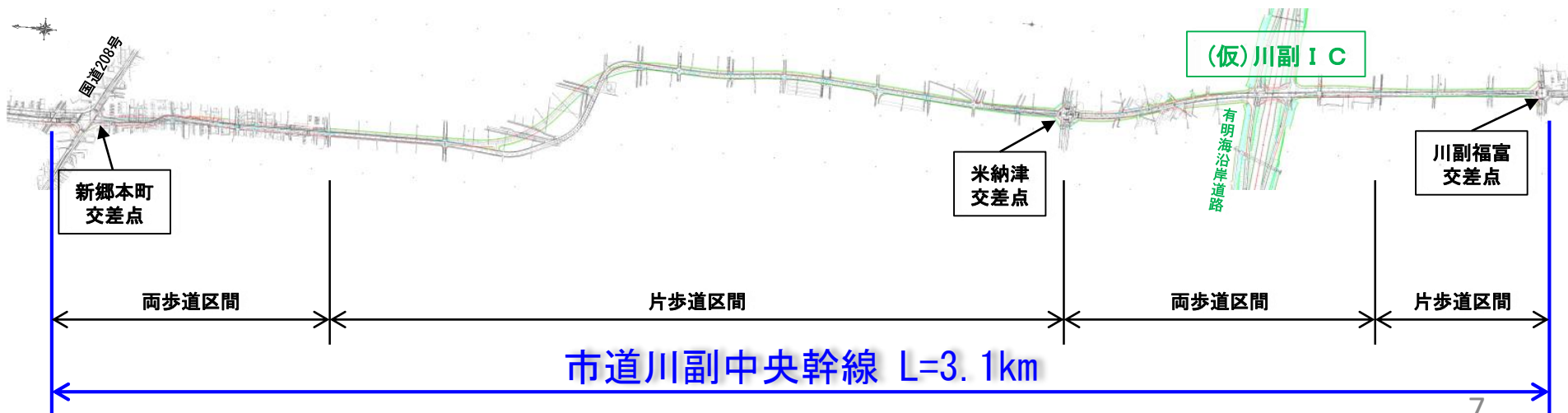
①交差点における渋滞の増加
(右折レーン無し)

②通学路としての利用に対して
危険性が増大(歩道整備不十分)

対策

交差点に右折レーンを設置

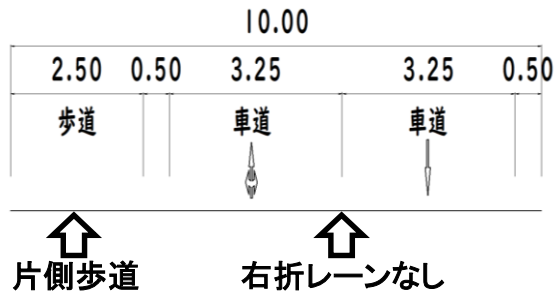
歩道を設置



川副中央幹線道路整備事業の必要性

現況断面図

【交差点部】
(新郷本町交差点)



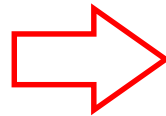
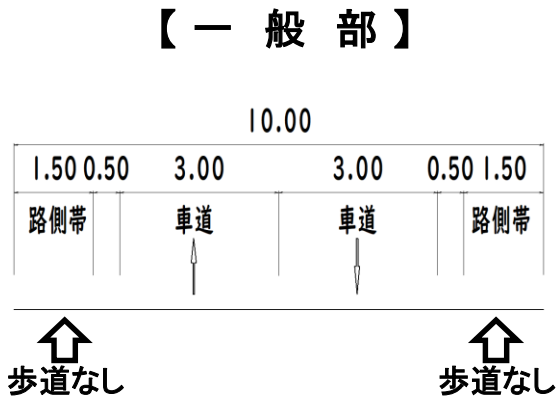
計画断面図

【交差点部】
(新郷本町交差点)



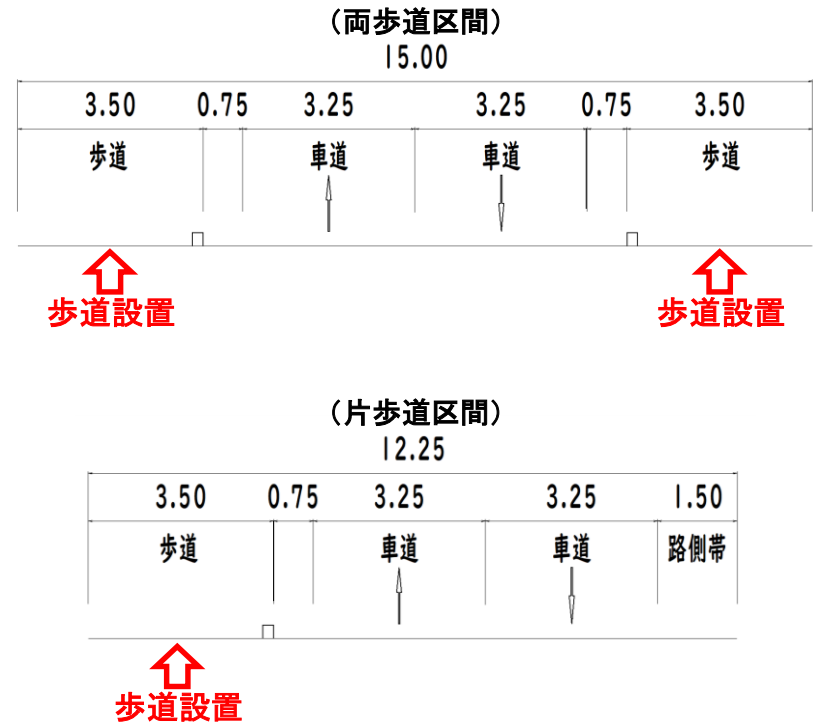
川副中央幹線道路整備事業の必要性

現況断面図



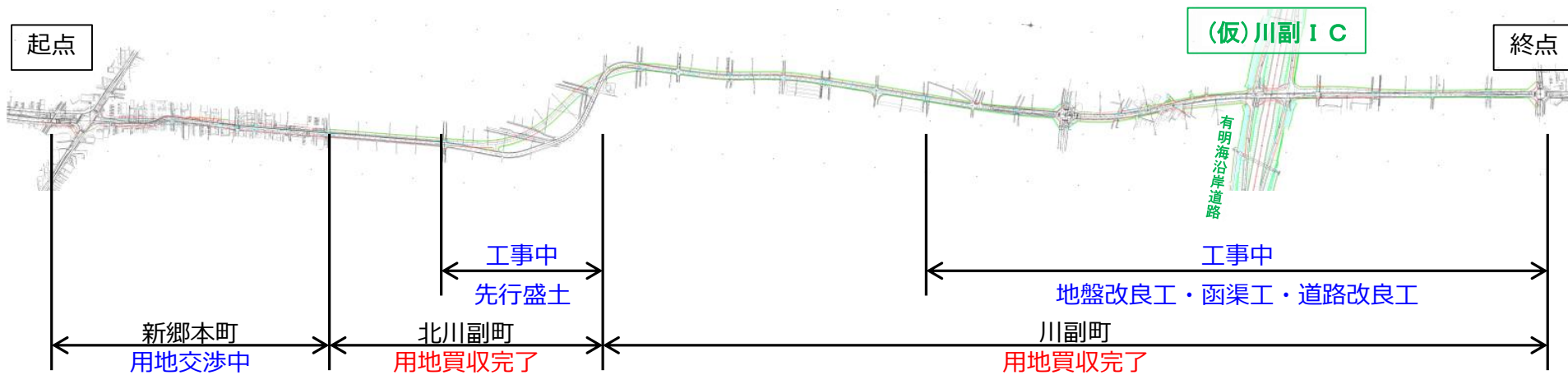
計画断面図

【一般部】



川副中央幹線道路整備事業の事業進捗状況

現在の進捗

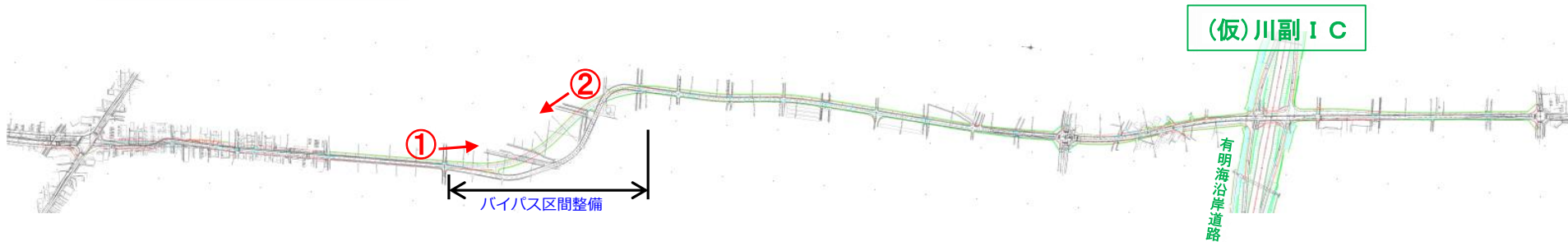


○現在の進捗状況（令和5年12月末現在）

- ・ 用地買収：全体 約21,100㎡の内 約20,000㎡ 完了
- ・ 物件補償：全体 18件の内 9件 完了
- ・ 函渠工：全体 11基の内 2基 整備完了
- ・ 事業進捗率：約40%（事業費ベース）
- ・ 新郷本町の用地交渉中
- ・ 有明海沿岸道路(仮)川副ICの工事に併せて、周辺の改良工事を実施中

川副中央幹線道路整備事業の事業進捗状況

現在の進捗



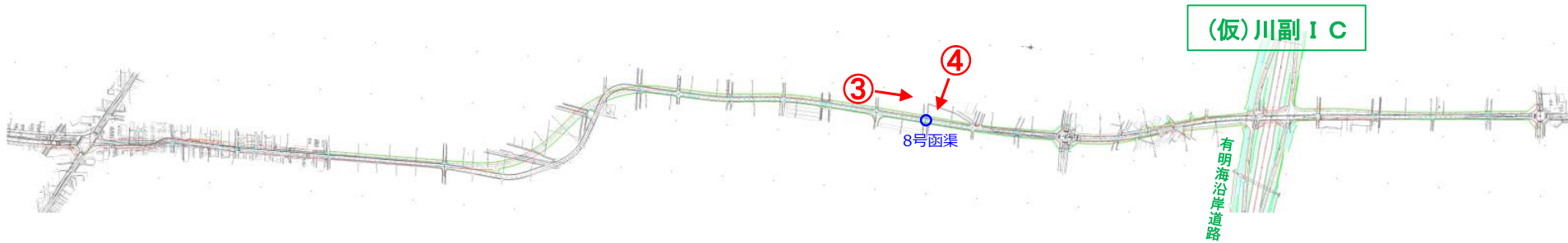
①バイパス区間整備中（先行盛土前）



②バイパス区間先行盛土

川副中央幹線道路整備事業の事業進捗状況

現在の進捗



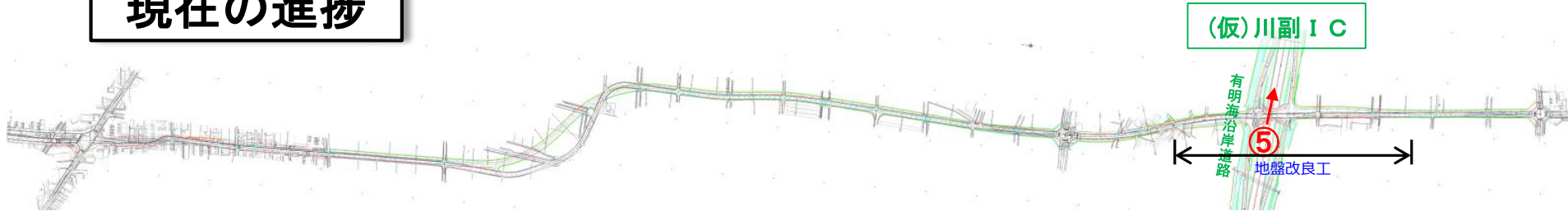
③ 8号函渠迂回路



④ 8号函渠（工事中）

川副中央幹線道路整備事業の事業進捗状況

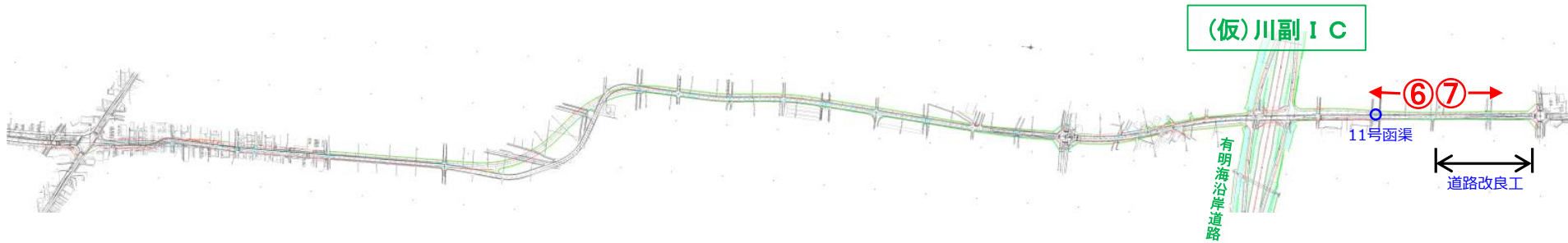
現在の進捗



⑤川副IC（工事中）※空撮

川副中央幹線道路整備事業の事業進捗状況

現在の進捗

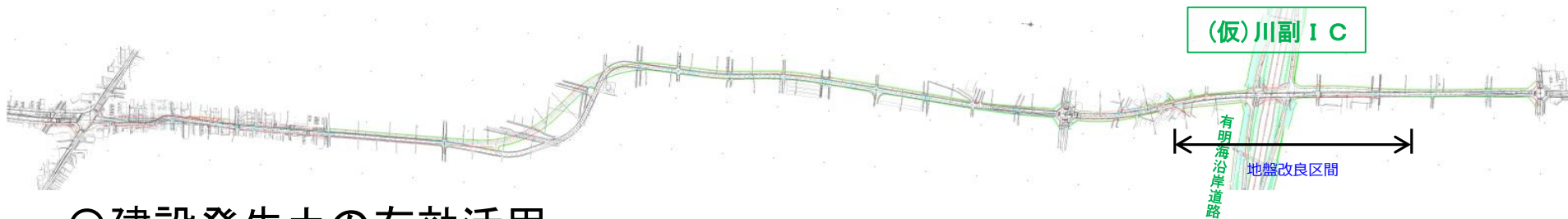


⑥ 11号函渠迂回路



⑦ 道路改良工（拡幅工事中）

川副中央幹線道路整備事業のコスト縮減



○建設発生土の有効活用

- ・ 工事に伴い発生した建設発生土（掘削土・地盤改良盛上り土等）を有明海沿岸道路の路体盛土として活用することで残土処分費の縮減を図っている。

※令和5年度実績：約2,800³m



事業の必要性の確認

事業の効率性確認のため、費用便益比（B / C）の算出を行う。

費用便益比（B / C）とは？

一定期間（50年間）の事業効果を総事業費で割った値であり、**1.0以上**あれば、十分な費用対効果
が得られる事業であると判断される指標

便益（B）	
走行時間短縮便益	道路整備により 走行時間が短くなる ことで得られる価値
走行経費減少便益	道路整備により 走行経費が減少する ことで得られる価値
交通事故減少便益	道路整備により 交通事故が減少する ことで得られる価値

費用（C）	
事業費	建物の移転補償費、設計費、工事費等
維持管理費	供用後、50年間の道路維持費

※便益費の算出は「費用便益分析マニュアル（令和4年2月 国土交通省）」に従い算出

事業の必要性の確認

便 益 (B)	45.17億円
走行時間短縮便益	41.51億円
走行経費減少便益	3.49億円
交通事故減少便益	0.16億円

費 用 (C)	40.96億円
事 業 費 (用地費除く)	40.66億円
維持管理費	0.30億円

費用便益比 $B/C = 1.10$

本事業における費用便益比 (B/C) を算出した結果、 $B/C = 1.10$ となり、 1.0 を上回ることから費用対効果が十分に得られる事業である。